

LABONCHI 01.

たかくらかずき「メカリアル」展

2023年2月28日(火)～3月26日(日)



©2023 takukurakazuki

山梨県立美術館では、美術館の可能性を模索する企画シリーズとして、LABONCHI（ラボンチ）を始動いたします。

第1弾として、仮想空間と現実の美術館の双方を舞台に、たかくらかずき「メカリアル」展を開催します。



種をまく 世界がひらく

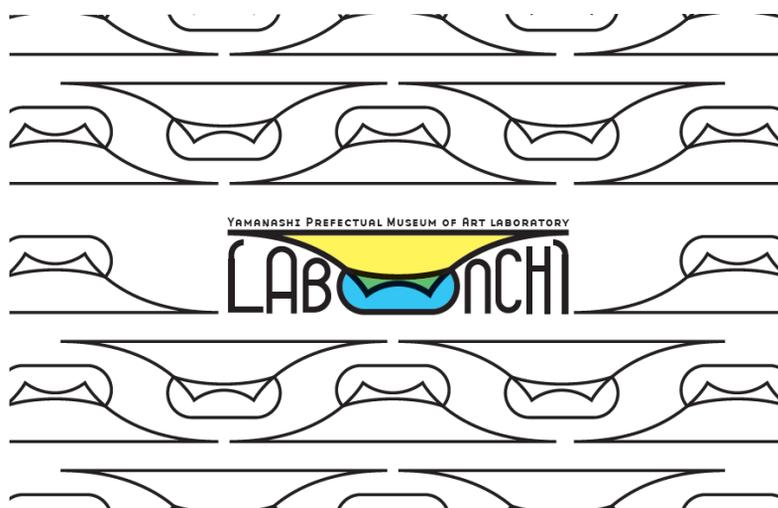
山梨県立美術館

Yamanashi Prefectural Museum of Art

YAMANASHI PREFECTURAL MUSEUM OF ART LABORATORY LABONCHI (ラボンチ)とは？

2020年初頭より、世界はパンデミックに見舞われ、社会の様々な活動は制限を受けました。ミュージアムも同様に、臨時休館や許容する人数制限といったかたちで、美的体験へのアクセスを可能な限り広く提供するという使命を果たせない時間を経験しました。

山梨県立美術館は、このような状況をきっかけに、失われたものを補うだけでなく、ミュージアムだからこそできる様々な新しい可能性を模索していきたいという思いから、企画シリーズとしてLABONCHI (ラボンチ)を始動いたします。



VI制作:小田雄太 (COMPOUND inc.)

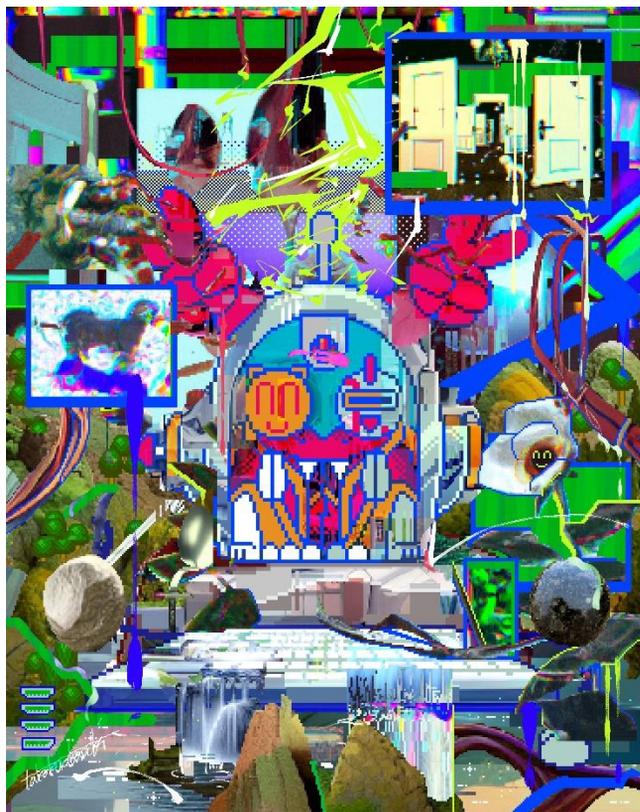
LABONCHI (ラボンチ)という愛称は、高い山々に囲まれる甲府盆地に位置する当館の実験室をイメージして命名されました。

VIは、経済ニュース共有サービスNewsPicksのCI、UI制作や、下北沢再開発エリア「BONUS TRACK」のVIサイン計画を手がけた小田雄太氏 (COMPOUND inc. 代表) によるデザインです。

アルファベットの高低差で盆地を表現しつつ、真ん中の「O」を起点に「逆さ富士」的なニュアンスを出すことで、「表層的ではないものを可視化する試み」というラボの本質が表現されています。

LABONCHIが第1弾企画として着目したのは、昨今、新しい時代のインターネットの在り方と共に話題になるメタバースです。現実とは異なる新たな世界が、3次元の仮想空間の中に生まれつつあります。本企画では、美術館の中心的な活動である、展示、そして教育普及活動に、仮想空間はどのような可能性をもたらしうるのか、皆様とともに探索いたします。

LABONCHI 01. たかくらかずき「メカリアル」展



本展は、館内空間、館外に広がる芸術の森公園、そして、仮想空間を舞台に、山梨県出身の作家たかくらかずきの作品を展覧する企画です。

本展のタイトル「メカリアル」は、シュルレアリスム(超現実主義)が日本に上陸した際の「機械主義」と呼ばれる傾向に着目した、たかくらによる造語です。本展の制作にあたり、たかくらの出発点となったのは、日本におけるシュルレアリスムの展開の黎明期より活躍した山梨県出身の画家、米倉壽仁(よねくらひさひと、1905-1994)の作品鑑賞でした。

たかくらは、日本で広く共有される信仰の中に息づく「存在を信じるが触れることのできない、向こう側のものたち」を「デジタル上の存在」に極めて近いものと捉え、AIによる画像生成、ピクセルアニメーション、3Dプリント、VR(仮想現実)、NFTといったデジタル技術を用いた表現に取り組む作家です。米倉が晩年に取り組んだ、東洋思想、仏教、土着の信仰と、シュルレアリスムを融合させ、現実世界を凌駕するようなイメージを生み出す探求に、たかくらは自身の制作活動との重なりを見出しました。

本展でたかくらは、機械と自然、メタバースと現実世界、AIと人間、合理と不合理といった、2つの異なる世界の和合を試みます。たかくらと米倉、2人の山梨県出身作家の共鳴から生まれる新しい作品世界をお楽しみいただきます。

展示構成

本展は、館内空間、仮想空間、芸術の森公園各所での展示を総合的に体感いただく試みです。

館内空間: ギャラリー・エコー(本館1F)

- ・ ギャラリー・エコー(美術館エントランス)で、AIによる画像生成、3Dプリント等を活用した絵画作品を展示いたします。
- ・ 本会場をご鑑賞いただくことで、関連イベント「[NFT道祖神巡り](#)」の[NFT配布場所](#)を知ることができます。



©2023 takakurakazuki

仮想空間: 県立美術館HP/美術図書室

- ・ 11月30日～2月27日にプレオープンとして開催した、たかくらかずき「大BUDDHA VERSE」展の空間がリニューアル。新たな装いとなった仮想空間で、新制作のデジタル作品を展示し、実空間展示との「和合」をお楽しみいただけます。
- ・ 仮想空間内の展示は、館内美術図書室内に設置したVRゴーグルで、臨場感のある体験をお楽しみいただけます。
- ・ また、仮想空間展示は、県立美術館HP経由で、ご自宅からオンラインでアクセスできます。お手持ちのPC、スマートフォン、タブレット端末、VRゴーグルで、ご鑑賞いただけます。



©2022 takakurakazuki

※本画像はプレオープン展のものです。

関連イベント「NFT道祖神巡り」: 館内、芸術の森公園各所

- ・ 館内、芸術の森公園内に配置されたQRコードにアクセスすることで、[たかくらかずき氏制作のNFT付きデジタル作品](#)を入手できます。(10種類。各種先着1000名まで。)
- ・ QRコードの配布位置は、ギャラリー・エコーの展示内容をヒントに、館内、芸術の森公園を探索いただけます。(紙媒体等、マップの配布は実施しない予定です。)



©2023 takakurakazuki

関連イベント

ワークショップ：ドット絵でカミを描こう！メタバースに展示しよう！

デジタル描画と仮想空間展示を組み合わせ、メタバースを活用したワークショップの在り方を模索します。

身近な自然や事物には、カミサマが宿っている？あなただけの「カミサマ」を描き、仮想空間に展示してみよう。

- ・講師：たかくらかずき（美術作家）、小田雄太（COMPOUND inc.）
- ・日時：3月18日（土）、3月19日（日）、10:00～11:30
- ・定員：5組10名
- ・対象：小学校低学年以上の子どもとその家族（※両日通して参加いただける方）
- ・場所：ワークショップ室 ※参加無料
- ・申込：2/21（火）午前9:00から、055-228-3322で受付いたします。
（定員になり次第締め切り。）

座談会①：メカリアル、シュルレアリスム、現代」

作家のほか、作品制作に協力いただいた長谷川新氏をゲストに迎え、作品、展示を深く掘り下げます。

『メカリアル』展の制作意図を解きほぐし、作家・作品の世界に迫ります。

- ・登壇者：たかくらかずき氏（美術作家）、長谷川新氏（インディペンデントキュレーター）
小坂井玲（当館学芸員）、森川もなみ（当館学芸員）
- ・日時：3月18日（土） 13:30～15:00頃
- ・定員：50名程度を予定（先着順）
- ・場所：ワークショップ室 ※申込不要、聴講無料

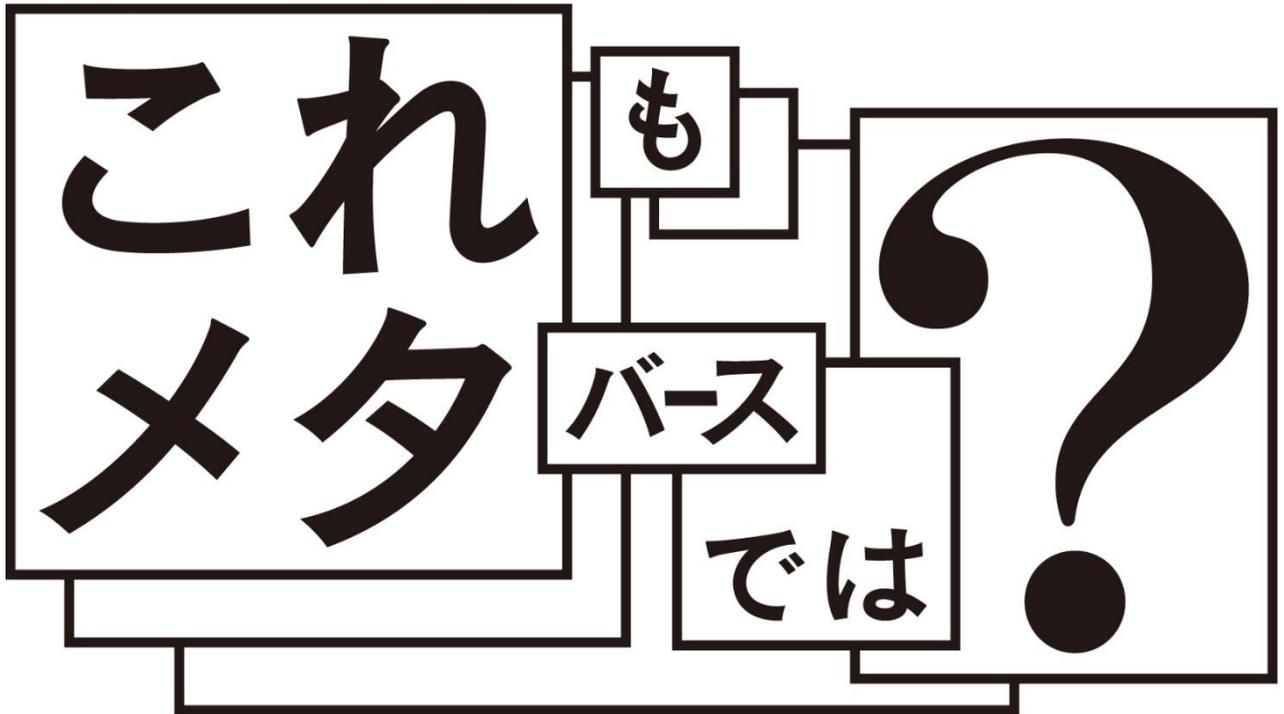
座談会「メタバース、NFTと美術館」

作家のほか、企画デザイン協力、VI制作の小田雄太氏と、本企画で使用したプラットフォームSTYLYの井倉北斗氏をゲストに迎え、様々なトピックについて、お話を伺います。

インターネットの新しいあり方と共に語られるメタバース、NFTが美術館にもたらず可能性について、探索的なトークセッションを行います。

- ・登壇者：たかくらかずき氏（美術作家）、小田雄太氏（COMPOUND inc.）、
井倉北斗（Psychic VR Lab.）小坂井玲（当館学芸員）
- ・日時：3月19日（日） 14:00～15:30頃
- ・定員：50名程度を予定（先着順）
- ・場所：講堂 ※申込不要、聴講無料

関連企画 「これもメタバースでは？」展



本展は、日常に潜む「これもメタバースでは？」と呼べる事象を、美術図書室のパネル展示を入り口として、仮想空間内でご紹介する展示です。

「ご先祖の供養」、「お祭りの金魚すくい屋さん」「普段とは違う服を着てみる」といった、多くの人が体験したことがある内容から出発し、「メタバースとは何か？」を考えるヒントを提示します。

併せて、様々な主体による昨今のメタバースの活用事例をご紹介することで、メタバースとは一体どのようなものなのかをご紹介いたします。

仮想空間プラットフォーム STYLY



STYLY

LABONCHI 01. たかくらかずき「メカリアル」展と、関連企画「これもメタバースでは？」展では、仮想空間のプラットフォームとして「STYLY」を利用しています。

「STYLY」は、様々な種別のデータを取り込むことができることから、空間制作を行う作家にとって、表現の自由度が高いことが特徴です。また、VRゴーグル、PCブラウザ、スマートフォン、タブレット端末といった端末からのアクセスを提供可能であり、幅広い利用者に作品鑑賞機会を提供することができます。

また、運営会社の「株式会社Psychic VR Lab」は2016年に設立された企業で、人間の潜在的に持つ想像力や表現力、集中力、感性や感覚などをXRによって引き出し、より良い世界を作っていく事をコンセプトとして掲げています。

仮想空間を活用することで、作品鑑賞機会の拡大と、新しい美的体験の提供を模索する本事業の目的と、親和性の高いプラットフォームです。

開催概要

名称：LABONCHI 01. たかくらかずき「メカリアル」展
会場：山梨県立美術館 ギャラリー・エコー(美術館エントランス)、芸術の森公園
会期：2023年2月28日(火)～3月26(日)
休館日：3月6～13日、20日
開館時間：午前9:00～午後5:00(入館は午後4:30まで)
観覧料：無料

主催：山梨県立美術館
企画デザイン協力、VI制作：小田雄太(COMPOUND inc.)
協力： STYLY、株式会社サンエムカラー、株式会社ゴードー
VR空間制作協力：haquxx
関連企画「これもメタバースでは？」展 編集協力：吉田山、原ちけい

交通アクセス

- 中央自動車道甲府昭和インターチェンジより
 - ・料金所を昇仙峡・湯村方面へ出て200m先を左折、西条北交差点左折、アルプス通りを約2km直進、貢川交番前交差点を左折、国道52号を約1km左側。(駐車場：乗用車345台、バス16台、障害者専用6台 いずれも無料)
- JR中央本線甲府駅より
 - ・甲府駅バスターミナル(南口)1番乗り場より御勅使(みだい)・竜王駅経由敷島営業所・大草経由韮崎駅・貢川(くがわ)団地各行きで約15分。「山梨県立美術館」下車。
 - ・タクシーで約15分。

お問い合わせ先

〒400-0065 山梨県甲府市貢川1-4-27 TEL:055-228-3322 FAX:055-228-3324

●取材等の問合せ

山梨県立美術館・山梨県立文学館 指定管理者 SPS・桔梗屋・KBS共同事業体
広報担当：輿石(コシイシ)・五味(ゴミ) spsyamanashipr@sps.sgn.ne.jp

●展覧会内容に関する問合せ

山梨県立美術館学芸課：小坂井(コザカイ)